

サクラ、咲いた！！ 卯月四月、朝夕(いえいえ日々)の寒暖の差に「服装困るわ・・・どうしよう」と頭を抱える方が多いですね。会社も学校も新しいスタートです。さあ、気持ち新たに毎日を過ごしていきましょう。



毎日新聞より

4月、新しい年度が始まりました。1日は、多くの会社で新入社員の方がリクルートスーツに身を包み、街を歩く姿に思わず「頑張って！」と、こころの中でエールを送りました。大手コンビニエンスストア、ローソンの入社式は、生成 AI やロボットを活用した演出が話題になってますが、2026年度の入社式では、竹増貞信社長の思考(プロセスまで)を学習させた AI 搭載マスコットロボット(AI 竹増 Ponta)が登場し、新入社員との質疑応答を行いました。式典中には配送ロボットにより社長のもとへ辞令が運ばれました。今回の新入社員は、一次選考で初めて導入された AI 面接を突破して入社した世代だということです。さらに、式の進行にはアバター(デジタル空間でのユーザーの分身を表す仮想キャラクターや3Dモデル)が活用されました。時代の流れか・・・

【ニュース】

① 診療日の変更

4月の診療日の変更はありません。
 5月の連休期間も、暦通りです。

② ミタクリAI入門

質問してみましょう→今日は勉強したくないなあ
 ChatGPTは答えました・・・

そういう日、ありますよね。無理にやろうとすると
 余計イヤになるやつ。

完全にやらないのもアリだけど、もしちょっとだけ
 気持ちに余裕あるなら「ハードルをめちゃくちゃ下げる」
 のもおすすめです。それで「やっぱ無理」なら今日
 はちゃんと休む日にしていきたいと思います。

③ 川柳コーナー

寄る年に 厠(かわや) 通(がよ) いが近くなり
 情けないチョイモレパンツの世話になり

暴君に 媚(こび) 諂(へつら) って 機嫌とり
 燥(はしゃ) ぎ過ぎ 公私の分別 弁(わきま) えて

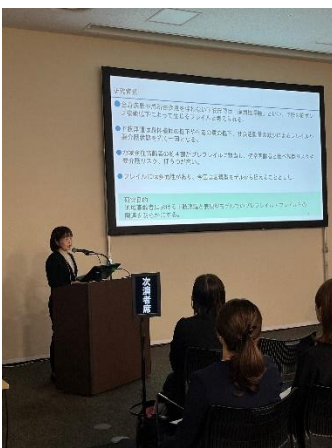
本当に許せない事が多いですね。毎日毎日、振り回されて
 しまいます。どうぞ皆さん、奮ってご投稿下さい。

【フットケア外来 日本フットケア・足病学会に参加して 文責：蔭西訓子、泉谷めぐみ】

2月27・28日、グランフロント大阪で行われた日本フットケア・足病学会に参加してきました。「LIFE TIME MANAGEMENT」をテーマに「足」について学ぶ機会を得てきました。

また皆さまのご協力により2月28日にフットケア学会にて発表を行いました

当院の患者様のデータをもとに、フレイル(体の弱り)との関係について研究を行い、学会で発表いたしました。



この研究は、通院されている皆さまのご協力により成り立っています。心より感謝申し上げます。

【ミタクリ論説 ～共同で研究すること～】



杉田玄白



平賀源内 ((財) 平賀源内先生顕彰会蔵)

医療を円滑に進めていくためには、様々な専門職の人々が協力して一人の病人さんを観察し、管理し、治療にあたる必要があります。こうしたグループで研究することは 17 世紀の近代科学が進歩する中で生まれています。科学 (の研究) は、一人だけの創意工夫によって進歩するわけではなく、グループとしていろいろな立場に立つ人が、一つの目的に向かって協力し合うことでその目的を達することができ、発展につながっていきます。1662 年にはロンドン王立協会が、1666 年にはフランスで王立科学アカデミーが生まれています。こうした内容は、江戸中期、杉田玄白らの蘭学研究にもみることができます。玄白は、こうした仲間のことを「同志」とよび、仲間の集まりを「社中」とよんでいます。前野良沢、桂川甫周、中川淳庵、大槻玄沢などの蘭医だけでなく、物理学の平賀源内、日本で最初の銅版画を作り、地動説を紹介した司馬江漢から長崎通詞 (つうじ) の面々までがこの社中に参加しています。蘭学という学問を通して、自然に対する素直な知識を求めようとしたわけです。貨幣経済の発展の中で、諸藩の財政は苦しく、農民からの収奪のみでは財政を立て直すことが困難となり、幕府はじめ諸藩では、藩内の生産物 (塩、漆、茶、クワ、煙草、綿、藍など) を高めようとしています。こうした中で「物産学」という新しい学問も生まれています。しかし、封建社会の矛盾は次第に大きくなっていき、町民も農民も体制上からの厳しい締めつけのなかで、何かを求めようとしています。こうした人々の声を玄白たちは理解して新しい学問づくりに励んでいたものと考えられます。当時は、田沼時代とよばれるように、積極的な政策もあったのですが、政治は放漫となり、華麗な江戸文化が創られています。こうして新しい学問を求めていた仲間たちの「社中」は、次の時代である「寛政の改革」のなかで、その多くは体制側につき、庶民のための利益を考える立場から、体制維持のための「学問」に変質してゆくことになります。



高橋由一筆『司馬江漢像』(東京芸術大学大学美術館蔵)



1792 年に司馬江漢が発行した『地球全図』

【欣子先生の診察室だより ～巽先生 還暦疑惑と姥捨伝説～】

・・・年明けの診察室。

Fさん：ところで先生は今年還暦じゃったかな??

私：まさか！ まだまだよ！（キリッ！！）

Fさん：おかしいな、僕が白寿の年と先生が還暦の年が同じと記憶しとったが？

私：いやまだ2年あるはずよ？

Fさん：いや、年が明けると数えていくから二つ歳をとるんじゃ。今年の誕生日が来たら数えて還暦のはずじゃろう？

私：数えて還暦・・・そうかも・・・ええええ・・・そんなあ・・・汗



ということで私は今年6月に還暦になるそうです。皆様、お祝いくださいませ！

・・・と現代なら言うところですが、1910年刊行の柳田國男「遠野物語」によると、江戸時代から明治初期にかけての飢饉の時代、60歳になると口減らしのためにデンデラノという集落のハズレに捨てられるという姥捨（うばすて）伝説の描写があります。

なんと、60歳になったら捨てられていたのです！！

捨てられた「老人」たちは日中は田畑に下りて農作業をし（ハカダチ）夕方には粗末な家屋に戻って（ハカアガリ）自給自足の共同生活を送っていたとのことでした。

自分の目で確認したくて遠野市土淵町まで足を運んだことがあります。共同生活を送ったという藁でできた粗末な「あがりの家」には真ん中に石でかこんだ囲炉裏が一つ。そこで粗末な食事をみんなで分け合いながらどんな会話をしたのでしょうか。ただそこで命が終わるのをお互い見送る、「孤立死」のないコミュニティはそれはそれで良かったかもしれない。けど、まだ捨てられたくないですね。

デンデラノから坂道を降りたところに、「不法投棄、見たら聞いたら110番 捨てているものを発見した方は通報してください」の看板が（笑）。

どこにでもよくある看板ですが、姥捨伝説のここにあると意味合いが違ってきますね。

さて一方、先ほどのFさんは白寿ですから99歳です。ジーンズ履いて自転車に乗って！

最近は原爆体験者としての語り部活動で学校で講演活動をされています。

中学校での講演活動が冊子になり、ミタクリにも一部いただきましたので皆様もご覧ください。

人生100年時代。60歳で捨てられていた時代から40年も寿命が伸びました。

さあ、残りのおまけの人生、どう生きましょうか？



ミタクリのコロナをはじめとする各種感染症への対応 2026年版

ミタクリに来院される皆さん、クリニックの現在の対応について、ご理解よろしく申し上げます！ちょっとひと息ついていましたが、先月中旬よりコロナやインフルエンザの患者さんが外来や介護施設でも急激に増えています。

- ① まず、ウイルスを「持ち込まない」ように細心の注意を払い、クリニック内を1時間半おきに消毒し、常時換気をしています。
- ② **予約の日であっても、調子が悪い場合は、まずお電話（072-260-1601）でご相談ください。**すぐに来ていただくか、時間をずらしていただくかを、その時点でご案内します。これまでは、コロナはじめ感染症の疑いのある方の場合、予約診療の方と時間・場所を分けて診察していましたが、柔軟に対応いたします。
- ③ **待ち時間の短縮に、引き続き尽力しています。** 私たちにお聞きになりたいことは、質問事項（今回はどんなお薬が必要か、どういった体調の変化があったか、など）や残薬など、あらかじめメモして持参いただけたら助かります。
- ④ お困りのことがあれば、きちんとお聞きして関係各所におつなぎしますので、ご遠慮なくご相談ください。「仕事がなくなってお金が入らない」「家賃や公共料金の支払いに困っている」などです。
- ⑤ ミタクリでは、**オンライン診療**（テレビ）を行っています。利用する際には、機器使用料など、いくつかの条件があります。詳細は、どうぞおたずねください。なお、**電話のオンライン診療は終了しました。**

【外来担当医一覧 2026年4月現在】

予約電話番号：072-260-1601

診察受付時間	月	火	水	木	金	土
午前 (9:00-11:00)	異	異 三谷 (オンライン可)	異(訪問診療) 三谷 (オンライン可)	異	異 三谷	三谷 (オンライン可)
午後 (14:00-16:00)	異 (オンライン可)	異(訪問診療)	異(予約) (オンライン可) 三谷(訪問診療)	異(訪問診療)		
夜診 (16:30-18:30)		三谷 (オンライン可)	三谷		三谷 (オンライン可)	